

かなやまじょう
銀山城と武田氏

銀山城は、鎌倉時代の終わり頃、安芸国の守護であった武田氏が築いたと言われる山城です。

武田氏はもともと甲斐国（山梨県）の武士ですが、安芸国と関係を持つようになるのは、承久の乱(1221)で手柄をたてた信光が、安芸国守護職に任命されてからです。武田氏は最初、代理を派遣して統治していましたが、元寇のあった文永11年(1274)に、信光の孫、信時が安芸国に下ってここに住むようになり、以来およそ300年間、安芸地方の支配にかかわってきました。

銀山城を築いたのは、信時の孫、信宗と伝えられています。武田山から見下ろす旧祇園町一帯には、中世、佐東八日市を始めとする市場や各地の荘園から運ばれてきた物資などを保管する倉敷地があり、政治、経済、交通のいずれの面でも、大変重要な場所でした。銀山城は、この要衝を押さえるのに格好の位置に築かれたのです。

標高410.9mの武田山全山にわたるこの城は、守りの固い名城とされ、戦国時代に中国地方の統一支配を目指して西から攻めてきた大内氏の激しい攻撃にも落ちなかったと言います。しかしその名城も、武田氏の勢力の衰えた天文10年(1541)、大内氏の命を受けた毛利元就らの巧みな戦略によってついに落城し、以後は大内氏の支配下におかれました。そして天文23年(1554)には、毛利元就が自身の居城として手中に納めています。



「御門跡」
武田山の中腹から少し登ったところにある御門跡。かつてふもとの方から城内に入ろうとする人を、ここであやしむ者がどうか調べたという。

かなやまじょうせき
銀山城跡周辺の史跡

しんらじんじゅ
新羅神社

武田氏の先祖、源新羅三郎義光（平安時代中期の武将）をまつている。鎌倉時代後期の正安2年(1300)に、武田信宗がこの地に建立して以来、武田氏が滅びるまで崇敬された社である。その後、里人により維持され、里の氏神となった。



りゅうせんじ
立専寺

もとは武将山金龍院という、武田氏の香華院（祈願所）であったが、武田氏の滅亡により廃寺となった。その後、再建され寺号も改名した。この寺には、武田山付近の古墳などから発掘した、弥生時代後期とみられる土器、須恵器や鉄製直刀などを陳列している。



武田一族の墓

三王原に3本の桜の木のある地が光和の墓といわれているが、その場所は不明。この墓所が一族の墓といわれている。



市民活動の紹介

現在、武田山を地域の魅力ある資源として保全・活用するため、様々な市民活動が行われています。ここでは次の4団体をご紹介します。



祇園まちづくりプロジェクト

子どもたちを対象とした歴史・自然学習教室を開催したり、登山道に道しるべを設置しています。



武田山・火山保勝会

史跡への案内板の設置や登山道の維持補修を毎年続けています。また、武田山と尾根続きの火山での里山づくりも行っています。



プロジェクト武田山

武田山の遊歩道づくりやコンサート、環境セミナーの開催などを行っています。



大町アルキニスト

大町から山頂までの登山コースの清掃活動を毎年実施しています。また、台風の際の倒木の処理や道しるべの設置を行っています。

